

# 在宅医療コーディネーター養成研修会(第2回) 報告書

日時・場所	平成 29 年 11 月 8 日 (水) 15 : 00 ~ 17 : 30 高松市医師会館
参加者	受講者 40 名 行政担当者 6 名
内 容	<p>【テーマ】医療処置が必要な療養者の場の選択支援とケアコーディネーション</p> <p>情報提供 : 1 訪問診療について 西口 潤 先生 2 訪問看護について 原田 愛 氏 (第 1 期生) 3 訪問薬剤指導 (薬局) について 石井侑以子 氏 (第 2 期生)</p> <p>事例検討 : 医療処置が必要なまま病院から退院する事例 大橋委員、片山委員</p>
結 果	<p><b>情報提供 :</b></p> <p><b><u>1. 訪問診療について</u></b></p> <p>○在宅医療に求められる役割</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・人口の高齢化 : 慢性疾患の増加</li><li>・医療の高度化 : 従来よりも医療依存度の高い症例が在宅で過ごすようになる</li></ul> <p>上記の要因により、日常的に医学的な管理を必要とするケースが増え、在宅でも高いレベルの医療が要求されるようになっている。</p> <p>在宅医療に関わる医師の役割は、自然経過と予後予測をできるだけ正確に行い、これを患者、家族、多職種チームで共有することにより、治療を含めた方針決定に際して患者、家族の意思決定プロセスを重視し、対等なコミュニケーション、コラボレーションを心がけながらチーム医療を行うことである。</p> <p><b><u>2. 訪問看護について</u></b></p> <p>○訪問看護の利用方法と内容</p> <p>○訪問看護のメリット、デメリット</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・住み慣れた地域や自宅で最期まで過ごすことができる。反面、介護者の負担が増強する可能性がある。</li></ul> <p>○在宅と病院の違い</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・病院は治療が最優先にあり、在宅は生活の中に医療が溶け込むため医療者の立ち位置も必然的に変わってくる。</li></ul> <p>○自宅で最期を迎えるにあたって、必要な支援</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・痛みのコントロールをはじめ、本人の苦痛、家族のサポートなど家族が支援する時間に問題が最小限になるように支援することが大切。</li></ul> <p>○在宅医療コーディネーターとしてできること</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ネットワークを作ることによって、今まで出来なかった支援が可能になり、相談相手が増え、利用者により良い情報提供や支援が提供できる。</li></ul> <p><b><u>3. 訪問薬剤指導 (薬局) について</u></b></p> <p>○在宅医療における薬剤師の役割</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・指導内容について</li></ul> <p>多剤をまとめて一包化、相互作用のチェックや服用時点の簡略化を行うことでコンプラ</p>

イアンス向上を図る。

・在宅医療での新しい試み

無菌調剤を行うことで麻薬調整や抗菌薬・高カロリー輸液の混合を行うことができ、在宅でも病院と変わらない医療を提供することができる。

**事例検討：**

○グループワーク（8グループ（1グループ：5～6人）

- ・意思決定支援シートの活用について
- ・意思決定支援の方法について、ワークシートを用いて事例検討を行った。